

学校再開を控えた5月29日、研究開発グループの企画により、「生徒臨時休業時の効果的かつ魅力的な学習活動の実践とは？」と題した教職員研修会を実施しました。教職員は全員参加しましたが、密集を避けるために、学校勤務の職員は普通教室等に分散、在宅勤務の職員も含めてオンラインで実施しました。事前に、4月以降実施してきたオンライン授業の動画やワークシート等をお互いに見合った上で、オンライン上で10チームに分かれ、次の4点について協議、その後全体で共有をしました。主なものを紹介します。

① 自らのオンライン授業やその工夫について

- ・自ら調べて取り組めるもの、自学に慣れることを意識した。
- ・既存の動画⇒オリジナル動画⇒教科書⇒解説動画⇒個別の質問対応
- ・学習プリントを配付⇒予習（空欄補充）⇒授業動画を見て加筆修正⇒提出
- ・提出物は、文書・画像（写真）どちらの方法も許容した。
- ・学習課題とともに、ループリックを事前配付した。
- ・youtube のおすすめ動画リストを提供した。
- ・「新型コロナウイルス」をテーマにした単元を作成した。

② 見学時に印象に残ったオンライン授業やその工夫について

- ・黒板を使い、チョークの音、先生の顔が安心感を与える。
- ・理科の実験動画が有効だと思う。
- ・ホワイトボードやノートを活用、部分的に倍速にすることなどが効果的。
- ・動画の最初にその動画の目的やねらいを説明しており、生徒が何を意識すればよいか分かる。
- ・「ごんたん」が登場するなど、生徒が楽しめる工夫がある。
- ・生徒に配付したプリントの問題を解いていく動画がわかりやすい。
- ・予習と復習のサイクルを自然に作ることができる。
- ・考える時間を確保している。
- ・共同編集の機能を使って、他の生徒の取組みがリアルタイムでわかる。
- ・「新型コロナウイルス」を話題に取り入れている。
- ・今だからこそ考えられること、気付けることを扱っている。
- ・話題に合わせて、ワークシートのリンクから世界中の博物館へ行ける工夫がよい。

③ 動画（オンデマンド型）と Meet 等（双方向型）の特徴、メリット、使い分けについて

- オンデマンド型は、解説に向いている。いつでも見ることができ、止めたり、繰り返し見ることができる。生徒は自分のペースで取り組むことができるが、全員視聴したかどうかの確認は難しい。
- 双方向型は、生徒の反応を見たり、意見を聞いたり、グループワークができる。ライブ感、緊張感があってよいが、大人数に対処するのは難しい。生徒の家庭環境や、通信環境によって難しいことも考えられ、そこに配慮する必要がある。
- 生徒の登校が始まったら、オンデマンド型と対面での授業を組み合わせるとよいのではないか。
- 教室での対面授業を含めて、良い点を組み合わせたいと思う。
- 夏期講習を双方向型で実施してもよいのではないか。

④ オンライン授業における学習評価をどのように行うべきかについて

- オンライン学習の中で、提出物やその取組みから観点別に評価してきた。
- ルーブリックの活用で、評価に関する問題が解消できている。
- 「知識・理解」については公平性の点から難しい面もあるので、今後対面授業の中で評価したいと考えている。
- 英語の「知識・理解」について、知識の活用という見地から英作文を通してみとった。
- 体育の「技能」など、オンライン学習では評価できないものについては、今後生徒が登校しての授業でみとっていく。
- オンライン学習の環境が充分でない生徒への配慮が必要。

生徒の登校が始まったら、まずは生徒一人ひとりの様子を把握し、対応できていない生徒へのフォローを最初にやらなければならないということも確認しました。

学校再開という新たな段階を控え、これまでの取組みを振り返るとともに、今後の教育活動について、教員同士の協議が展開され、意義のある研修会になったと思います。ここでの研修の成果を活かしていくとともに、第二波にも備え、生徒の「学びをとめない」体制を強化していきたいと考えています。